

## 越冬地におけるミヤマガラスの生態 (予報)

山 本 貴 仁\*

The ecology of Rook *Corvus frugilegus* in wintering ground.  
Takahito YAMAMOTO

Roosting sites and daily behavior of the Rook *Corvus frugilegus* were studied in Tokyo District Ehime Prefecture. The roosts are distributed around the plain, and include other crows.

The Rook has a habitual routine, going back and forth between roosting sites and foraging sites more than 10 kilometer each other. This report is still in progress.

### はじめに

#### 調査の背景・目的

ミヤマガラス *Corvus frugilegus* は、ユーラシア大陸に広く分布し、日本へは冬鳥として主に九州地方や本州西南部に多く飛来する。本州の他の地域や四国、対馬、五島列島、大東群島でも記録はあるが、希な冬鳥とされてきた(高野, 1981, 石原, 1982)。

ところが、1980年代に四国や、中国地方東部での越冬が確認され始め、愛媛県では、1984年東予市で越冬が確認された(丹下, 1987)。それ以後、県内において毎年越冬が確認され、飛来数の増加とともに越冬地を拡大する傾向にある。そこで、ミヤマガラスがどのように越冬地を拡大してきたのかを明らかにすることを目的とし、その一環として平成8年度は越冬地でのミヤマガラスの生態について調査を行った。

越冬地において、本種は大群をつくることが多く、その習性はよく知られている。しかし、渡米時期、渡去時期、ねぐら位置、食性、日周行動など越冬地におけるミヤマガラスの生態に関する報告は少ない。今年度は上記の各項目について調査を行い、現在も継続中であるが、調査の概要とこれまでに得られた結果について報告する。

#### 調査地、調査方法

調査は、愛媛県新居浜市、西条市、東予市を中心に行い、周辺の宇摩郡土居町、周桑郡丹原町、今治市でも行った。このうち新居浜市にねぐらを持ち、西条市、東予市で餌を採ね群について主に調査した。

渡米時期についての調査は、西条市、東予市にて行った。

前年に採餌する群れが観察された水田を中心に、10月上旬から自動車巡回し、ミヤマガラスの発見に努めた。個体数については、ねぐらを立つときや採餌中は密集しカウントが困難なため、群れがまばらになるねぐらと餌場との移動中にカウントした。

ねぐら位置については、昼間餌を採る水田からねぐらへ帰る群れを自動車追跡する方法と、見晴らしの良いいくつかの定点からねぐらへ向かう方向を確認する方法を合わせて用いた。

日周行動は、採餌場所が前日と同じ場所であることが多いことから、群れが到着する前に待ち伏せ、ねぐらへ帰るまで終日観察を行った。日周行動の観察と同時に餌と食物についても注意を払った。

### 結 果

#### 1. 渡米時期及び個体数の変化

西条市及び東予市におけるミヤマガラスの飛来は、10月17日に西条市蛭子の水田に約30羽が飛来しているのが最初に確認された。この初認日は過去の観察記録ともほぼ一致する(山野敬二 私信)。渡りの経路については、不明であるが、愛媛県西宇和郡佐多岬先端において西から飛来するのが観察されている(井上勝巳 私信)。

個体数の変化については、新居浜市をねぐらとする群についてカウントした。その結果、12月にかけて徐々に個体数が増加し、12月28日には約2700羽を数えた(図1)。ただ、後述するように他のねぐらとの間で個体の移動が見られたことから、このねぐらの個体数の変化を表したものはいえない。このねぐらでは、12月以降個体数の減少が見られたが、採餌場所での明らかな個体数の減少が見られないことから、他のねぐらへ移った可能性があ

\*愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究科  
Dept. of Natural history Ehime Pret. Science Museum

### 3. 日周行動

### 2. ねぐらについて

—

km

—

km

km

km



